

三百年の松： 大都市化にも生きながらえた浜離宮 江戸・明治・昭和の足跡を残す



2020年10月（東京都中央区・浜離宮恩賜庭園）

◆徳川将軍家の御狩場として

四代将軍家綱の時代に1万5000坪の埋め立てを開始し、六代将軍家宣の時代に潮入り庭園の「浜御殿」と呼ばれました。明治時代には皇室の離宮となり、1946年から「浜離宮恩賜庭園」と呼ばれています。

◆300年前の大改修時に植えられた松

江戸（東京）湾沿いには、幕末には異国の船を見張る場所でもありました。いまも小高い築山が残されていて、風情ある松が海風を受けて揺れています。

岡村幸二（JRRN会員）